

スウェーデンにおける 成績評価システム

～個別学習目標への参画と 自主参加が重視される教育～



愛知万博 北欧共同館副館長
有琳藤 クリステル 氏

教育随想



平成17年10月1日

10月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
愛知万博 北欧共同館副館長 有琳藤 クリステル氏	
この人に聞く	2
岡崎市国際交流協会理事長 太田 進造氏	
羅針盤	2
美合小学校長 杉本 佳子	
ふれあい	3
連尺小 山内 剛治 甲山中 吉川久美子	
特集	4
みんなで育てる ～着々と進む子育て支援～	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
体育祭バザー (昭和26年)	
この本を	8

私の祖国スウェーデンの人口は、約九〇〇万人。しかし、今日までにボールベアリング、ペースメーカー、テトラパック、温度計等の発明で世界に貢献してきました。

この国の義務教育制度施行は、一八四二年、特に六十年前より生徒を競争させる教育から、生徒が己に目を向け、自己の知識向上や可能性の探求に力を注ぐ個性を尊ぶ教育へと大きな変貌を遂げています。通知表が中学二年生まで交付されないこと、新学年進級時に生徒の意思で立案させる個人学習目標の達成度を、成績評価の重要な要素に加えることなど、革新的な取組が行われています。親や生徒に対しての成績通知は、中学二年生に進級するまでの間は個別懇談会を通して行われますが、懇

談会実施前に、生徒は教師から個別学習目標の達成度や生活態度を自己評価するための問診表が与えられ、記入の上で懇談会に臨みます。問診表には、生徒が教師を評価する欄などもあります。学期の終わりには、教師からどのような基準で成績評価が行われたのか直接伝えられます。スウェーデンはオンブズマン発祥の地であり、現在も活動が盛んです。こうした活動の根底には、問題(目標)把握・計画立案・遂行・評価・改善といった学校教育で養われる評価シ

ステムの概念が生きています。国民の社会問題への参画や自主的な取組は、男女同権や、障害があっても安心して自立した生活ができる社会の実現など、社会の活性化に重要な意義をもたらしています。

今後の岡崎市とスウェーデンのウツデバラ市との姉妹都市交流を通して、両国のすばらしいところをお互いに発見し、学び、理解し合うことができます。心より期待いたします。

(アールリンド クリステル)





真の国際理解

岡崎市国際交流協会理事長

太田 進造 氏

「どんな国に行ってもどんな方にお会いしても、人間が本来持っている誠実さと親切さは共通です。それがないと、どんな場所でも生きていかれません。」

しみじみと語るのは、岡崎市国際交流協会理事長の太田さん。太田さんは、太田油脂株式会社の社長をされる傍ら理事長を務めている。

「以前、東京で貿易会社に勤めていました。岡崎に帰ってきてからも、会社の取り引きの関係で外国人との付き合いは絶えませんでした。そん

な中で国際理解の大切さを感じ、自ら探して協会に入会したのです。」

協会では、国際交流、共生支援、国際協力を中心として事業を進めている。交流ボランティアに参加する若者たちの様子を、

「わたしたちは外国の人に接するとき、どうしてもお客さんとして扱ってしまう。でも、今の若い人たちは友人として素のままに触れ合うことができる。そこがすばらしい。」と、感心して話してくださいました。

現在、岡崎市には人口の約三パーセントに当たる九千人ほどの外国人が生活しているという。この方たちとの共生のために、次のように話された。

「まず、相手の文化を尊重する態度が大切。ごみ一つとってみても、日本のような細かい分別をしている国はほとんどなく、みんなまとめて捨てるのが当たり前になっています。その違いを受け止めるところから理解は始まります。だから、間違いを見つけて叱るのではなく、日本語でいいから優しく教えてあげてほしい。外国人たちは、意外に話しかけられるのを楽しみにしている場合も多いですよ。」

協会では、将来NPOとして自立するために、六名学区にある岡崎市

外国人交流支援センターを中心に活動を広げている。

「これからの子供たちは、小さいうちから外国人と一緒に活動する機会を持つてほしい。共に生活すると外見や文化は違ってても、人として思うことはあまり変わらないことがよく分かるはずです。それから、さらに深く分かり合うためにも一つお願したいことは、英語でも中国語でもいいから、何か一つ外国語を話せるようになってほしい。言葉は理解のための大きな道具です。」

岡崎の子供たちのために、そう語ってくださいる太田さんの言葉には、真の国際理解を支援する熱い情熱が込められていた。



氏名 おおた しんぞう
生年月日 昭和十一年五月十八日
住所 岡崎市福岡町西後田十一五

教師の期待効果

美合小学校長 杉本 佳子



新指導要領が完全実施されて四年目、各学校では子供に「確かな学力」を身につけさせることを目指して、少人数指導授業が行われ、個に応じたきめ細かな指導が定着してきた。

本校でも算数を中心に少人数指導授業を実施し、年を重ねるごとに指導方法を工夫してきた。発達段階や子供の実態に合わせ、TT方式や習熟度別指導を取り入れて指導しているが、下位の子供にいかんが学習意欲を持たせるかが課題となっている。

少人数指導は教師が子供一人一人の個性を正しく理解することが前提であり、この個性の理解に伴って生じる教師の「期待効果」についての配慮が必要である。この効果とは、教師が子供を理解し、ある一定の知識を持つとそれが子供に対する期待となり、その期待が子どもの行動や

自信を取り戻した一年

連尺小 山内 剛治

「今年は、頑張る。」

六年生の最初の日、新しく担任となったわたしに、A男はこう言った。A男は、三年生の終わりころから不登校となった児童である。

欠席のたびに、家庭訪問を繰り返して、A男の話すことのすべてを丁寧に聞き、対話を続けた。そして、六月のある日、「僕が学校に行けなくなったのは、友達とうまくいかなかったからなんだ」と、A男は自らが不登校になった理由を語り始めた。この会話をきっかけに、よりよい仲間づくりをテーマにした学活や道徳の授業を行うなど、学級づくりを見直した。A男の欠席は徐々に少なくなつたが、不安なことがあると、毎日のように学校や自宅に電話をか



けてきた。ささいなことが多かったが、A男の話をじっくり聞き、励まし続けた。

二学期には、A男は学芸会の大役に立候補するまでに自信を取り戻していた。本番前日、「明日は死ぬ気で演じてみせる」とわたしに語ったA男。その後は、どんな活動にも自信を持って取り組んだ。

今年の夏、中学生になったA男と久しぶりの再会。生き生きと輝くA男の表情がとても印象的であった。A男との一年、心のふれあいをわたしはずっと忘れない。



最高の笑顔

甲山中 吉川久美子

おしゃべりが大好きなA子は、教室でも部活動でも友達や教師と楽しく元氣よく過ごしている。反面、苦手なことを目の前になると体調不良を訴え、逃げ出す弱気な面があった。六月、自然教室。A子は、体験学習、ペンションでの時間、洞窟探険と楽しい時間を過ごした。



最後の日程は富士山の五合目から六合目への登山。頭が痛いA子の弱気が顔を出した。この機会にA子には逃げ出さず、辛いことを乗り越えたときに胸いっぱい広がる達成感を味わわせたいと考えた。

「大丈夫。頑張つて登ろうよ。」とのわたしの言葉にうなずき、一緒に歩き出した。足取りは重く、だんだん遅れる。A子の荷物を持ち、励まし続ける。A子は足元を見つめ、必死に歩き続けた。六合目に近づいたところでもう一度声をかけた。「あの木を越えると六合目だよ。あと少し。」

目標達成を間近に感じたA子は、顔を上げ、力強く言った。「わたし、みんなと一緒に歩く。」級友と共に、何とか六合目に到着。「やったあ。先生、ちゃんと歩いたよ。気持ちいいね。」

最高の笑顔が輝いていた。

成績に影響するという説である。

例えば、教師がこの子はよい成績を取るであろうと期待すると、その子には難しい問題を与えたり、質問に対して答えるのを長く待ったり、ヒントを与えたりすることがある。逆に悪い成績を取るであろうと予想すれば、その子に対して逆の扱いをする傾向がある。教師からこのような扱いを繰り返されると、子供も教師の期待に応じる反応をし、よい成績を期待された子供はよく勉強してよい成績を取り、悪い成績を予想された子供は勉強しなくなり、悪い成績を取るようになる。

日ごろの子供の学習への取組を見ると、この考え方は納得できる。自分には能力があると先生に認められていると感じる子供と、自分は能力がないと思われていると感じる子供では、学習意欲に差が生じ、成績にも違いが表れる。従って、少人数指導を行う場合には、子供に対する理解が誤った先入観となり、指導に悪い影響を及ぼさないようにしなければならない。教師自身がそれぞれの子供に前向きな期待を持ち、その子に合った目標を立て、それに向かって努力させることが少人数指導授業を成功させるコツであろう。



みんなで育てる

～着々と進む子育て支援～

▲ 小学校低学年児童を笑顔で迎える指導員さん（梅園児童育成センター）

家庭の生活環境の変化や子育て問題の複雑化に伴い、子育て支援にかかわるニーズがますます多様化している。

岡崎市では、これまでも子育て支援や児童の健全育成に取り組んできたが、新たに「児童育成支援行動計画」を策定し、子育て支援事業にいっそう力を入れている。

また、民生委員・児童委員等による子育て支援活動も盛んになっている。現在、市内各地域に二十五の子育て支援の会が結成されており、地域で取り組む子育て支援の要となっている。

一方、小学校低学年の放課後の居場所作りとして、これまでの遊びの場としての学区こどもの家に隣接し、生活の場である児童育成センターの設置が進められている。それぞれの施設には指導員が配置され、安全面を配慮した環境の中で、家庭と同じように、子供たちがほっとできる居場所作りが行われている。また、家庭や学校と随時連絡を取り合いながら、子供たちが健やかに育つための支援が行われている。

明日を担う子供のために、社会の変化に柔軟に対応し、家庭と地域、保育・教育の現場がいっそう連携して、みんなで子育てをしていくことが重要になってくるだろう。

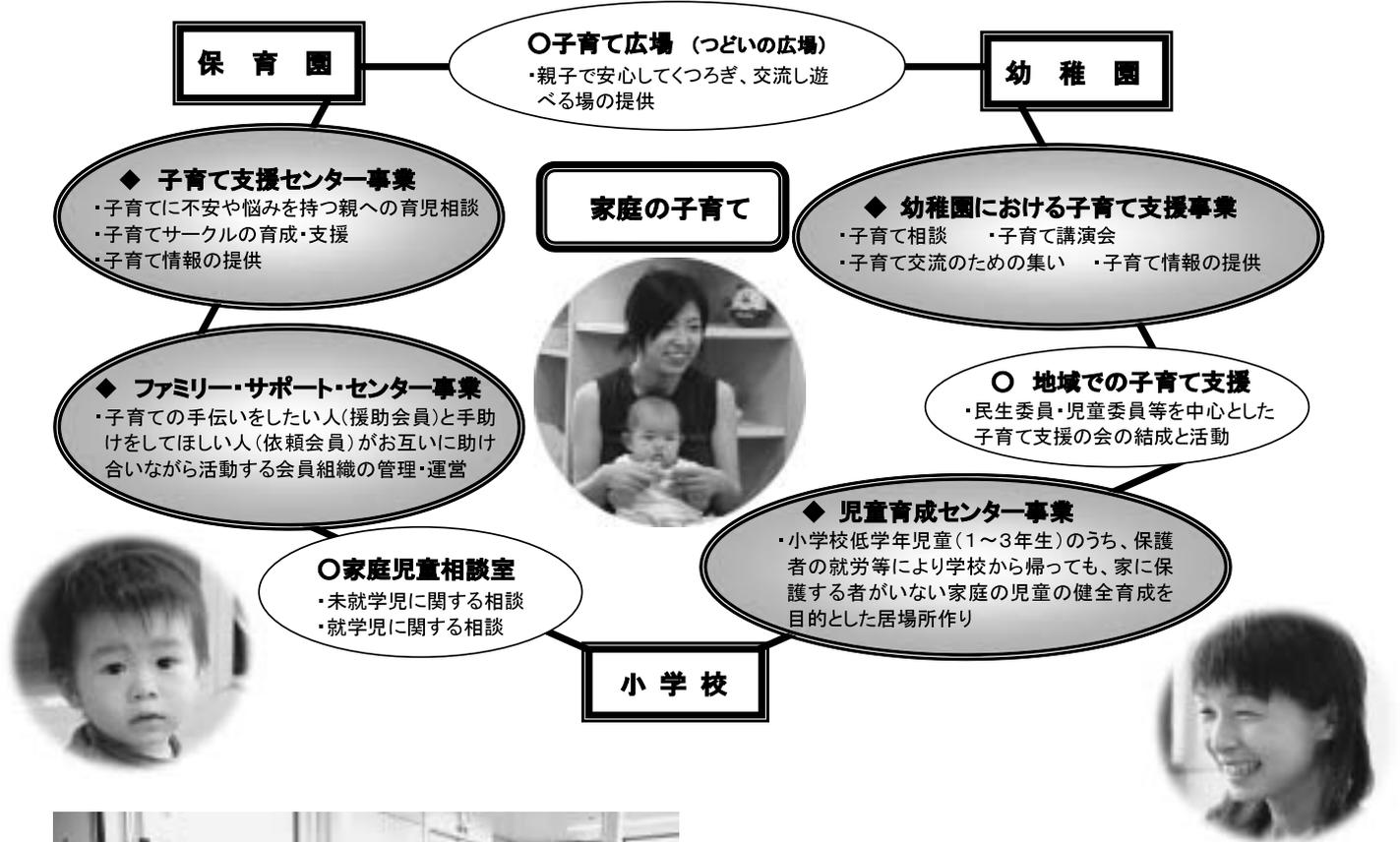


▲ 母親のための読み聞かせの会（矢作幼稚園）

◆児童育成センターでの小学校低学年児童の利用状況

	利用者総数	センター総数	新設学区
H11	57名	2か所	上地、大門
H12	147名	4か所	梅園、六ツ美北部
H13	257名	8か所	北野、城南、竜美丘、緑丘
H14	420名	10か所	井田、矢作南
H15	467名	11か所	六ツ美南部
H16	843名	14か所	六名、六ツ美西部、本宿
H17	876名	18か所	男川、三島、細川、矢作北

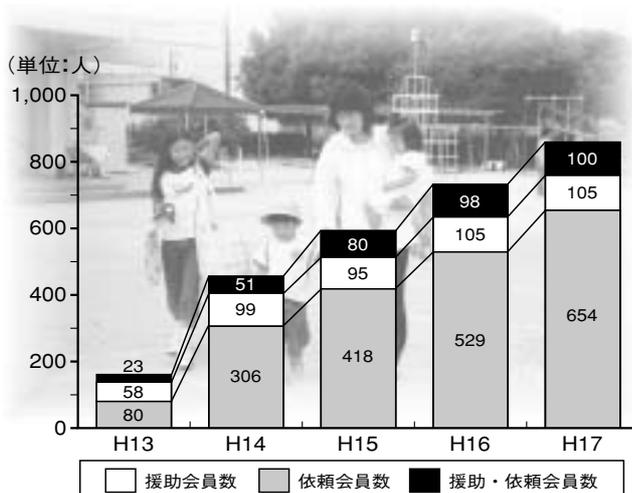
※市内には、児童育成センターの他に、民間の児童クラブが10か所ある。



▲ 地域にできた「つどいの広場」(北部地域交流センター「なごみん」)



▲ 地域での子育て支援の会(めだか広場)



▲ ファミリーサポート会員数の推移



▲ 父親のための子育て交流の集い(広幡幼稚園)

お知らせ



● 教育最新情報

スクール・サポート・ボランティア(S・S・V)の意義と傾向

学習指導要領の総則で「開かれた学校づくりを進めるため、地域や学校の実態に応じ、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深めること」と示されている。こうした地域を取り込む教育活動が市内でも広がりを見せてきている。(平成十七年度十一月現在調査と平成十七年度一学期末現在調査との比較)

① S・S・V 導入学校数

小学校 全校実施
中学校 十三校↓十七校

② 活動内容と人数

○ 学習支援

内容：総合的な学習の時間が多くを占め、その他に生活科、算数、社会、技術・家庭など

様々な教科領域に及んでいる。また、クラブ活動での技術支援も行われている。

○ 部活動支援

八二五名↓八七〇名

○ 読み聞かせ活動

内容：バレエボール、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、ソフトテニス、柔道、剣道、水泳などの運動部と共に、吹奏楽などの文化部の支援も行われている。

○ 募集方法

学校だよりや校長室だより、学年・学級通信などの文書を通じて募集したり、担任や担当者、PTAの組織から依頼したりしている。また、地域への回覧文書に加えたり、知人の紹介や本人が申し出たりしている。

○ その他

内容：学校行事や奉仕活動、環境緑化活動、防犯活動、夜間パトロールなどの支援も行われている。

○ 総合計

四九三名↓一〇三名

○ 登下校安全指導

内容：児童生徒の登下校時に合わせて、パトロールや声かけなどの支援が行われている。

○ 読み聞かせ活動

内容：朝の読書や昼の読書など、各学校で時間帯を設定して行われている。

○ 学習支援

内容：総合的な学習の時間が多くを占め、その他に生活科、算数、社会、技術・家庭など

○ 部活動支援

八二五名↓八七〇名

○ 読み聞かせ活動

内容：バレエボール、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、ソフトテニス、柔道、剣道、水泳などの運動部と共に、吹奏楽などの文化部の支援も行われている。

○ 募集方法

学校だよりや校長室だより、学年・学級通信などの文書を通じて募集したり、担任や担当者、PTAの組織から依頼したりしている。また、地域への回覧文書に加えたり、知人の紹介や本人が申し出たりしている。

小中総数

二四一九名↓四一八九名

○ その他

内容：学校行事や奉仕活動、環境緑化活動、防犯活動、夜間パトロールなどの支援も行われている。

小中総数

五一九名↓九二七名

○ 総合計

四九三名↓一〇三名

(防犯面で大幅増)

○ 登下校安全指導

内容：児童生徒の登下校時に合わせて、パトロールや声かけなどの支援が行われている。

○ 読み聞かせ活動

内容：朝の読書や昼の読書など、各学校で時間帯を設定して行われている。

○ 学習支援

内容：総合的な学習の時間が多くを占め、その他に生活科、算数、社会、技術・家庭など

○ 部活動支援

八二五名↓八七〇名

○ 読み聞かせ活動

内容：バレエボール、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、ソフトテニス、柔道、剣道、水泳などの運動部と共に、吹奏楽などの文化部の支援も行われている。

○ 募集方法

学校だよりや校長室だより、学年・学級通信などの文書を通じて募集したり、担任や担当者、PTAの組織から依頼したりしている。また、地域への回覧文書に加えたり、知人の紹介や本人が申し出たりしている。

○ その他

内容：学校行事や奉仕活動、環境緑化活動、防犯活動、夜間パトロールなどの支援も行われている。

○ 総合計

四九三名↓一〇三名

○ 登下校安全指導

内容：児童生徒の登下校時に合わせて、パトロールや声かけなどの支援が行われている。

○ 読み聞かせ活動

内容：朝の読書や昼の読書など、各学校で時間帯を設定して行われている。



▲ 学習支援 (根石小)

● 社会体験型教員研修

イオン岡崎ショッピングセンター 紅茶専門店「レピシエ」での研修

六ツ美南郡小 高瀬 玲子

八月上旬の五日間、紅茶専門店「レピシエ」にお世話になり、喫茶コーナーの接客を中心とした仕事を実際に体験させていただいた。この研修を通して、学校でも生かせる様々な取組や理念を見つけることができた。

最初に気づいた点は、店内環境のすばらしさである。店内はきれいに掃除され、客席には一輪挿しに草花が飾られている。そして、スタッフの笑顔。常にお客様を気持ちよく迎えられる環境が整えられていた。

次に、個々のお客様のニーズに応じたサービスをする必要があると感じた。例えば、小さい子供連れのお客様には子供用の椅子をお使いになるか伺う。あるいは、車椅子に乗ったお客様には移動のしやすい広めの席に案内す

る、といった配慮である。

また、注文された紅茶が出来る上がったときには、たとえ自分の仕事をしているときでも、手を止めて少しでも早くお客様の席へ運んだ。このように、店員の都合ではなく、お客様中心の視点で仕事の優先順位を考えることも大切であった。

以上の点は、「お客様」「子供」に置き換えれば、学校現場でも十分役立てることができると感じた。

最後に、今回の研修で異業種の仕事を体験したことで、改めて教員の仕事のよさにも気づくことができた。今後とも教員であり続ける限り、常に向上心を持ち、研修を積んでいきたい。



▲ お客様に紅茶をサービスする様子

●表 彰

◆第六十回東海吹奏楽コンクール

A編成

- 金賞 竜海中学校
- 銀賞 矢作中学校

◆第四十八回中部吹奏楽コンクール県大会

大編成の部

- 金賞 竜海中学校
- 矢作中学校
- 岩津中学校
- 六ツ美北中学校

●小編成の部

- 金賞 美川中学校
- 新香山中学校
- 矢作北中学校
- 六ツ美北中学校

◆愛知県野生生物保護実績発表会

- 県知事賞 生平小学校
- 県教育委員会賞 河合中学校

◆日本自作視聴覚教材コンクール

- 文部科学大臣賞 中学校部門
- 「石にかける思い」
- ―日本初、女性石工の挑戦―

- 岡崎市自作視聴覚教材制作委員会C班
- 尾藤広行・山盛誠治・山盛かおり
- 倉地耕治・河合正浩・松井久
- 文部科学大臣賞 小学校部門
- 「水の大冒険 ―岡崎の水の秘密―」

- 岡崎市自作視聴覚教材制作委員会G班
- 伊藤研治・笠間大樹・川本祐二
- 河澄 崇・神谷耕一

◆NHK合唱コンクール

- 銀賞 県大会 矢作東小学校
- ◆とうお杯全国少年少女水泳競技大会
- 50M自由形 優勝

- 広幡小 六年 西尾 次郎
- (一〇〇M自由形 三位入賞)

◆第三十回岡崎市小中学校児童生徒統計グラフコンクール

市長賞

- 竜美丘小 六年 杉浦 加奈
- 竜美丘小 六年 柴原 耀一
- 葵中 二年 今岡 美晴

●市議会議長賞

- 交善寮 四年 田村 館奈
- 竜海中 三年 鬼頭沙友子
- 北中 三年 工藤・香村・神野

●教育委員会賞

- 竜谷小 五年 浅井麻里子
- 葵中 一年 高田・木村
- 北中 三年 柴田・三浦

- 学校賞 竜美丘小学校
- 竜南中学校

◆第十八回岡崎市中学生の主張コンクール

- 優秀賞
- 南中 三年 親川 武仕
- 竜海中 三年 藤原 梓
- 東海中 三年 藤江 慧典
- 北中 三年 春奈紗季江

●陸上競技

◆平成十七年度少年の主張愛知県大会

奨励賞 東海中三年 藤江慧典

◆第四十六回岡崎市中学生英語スピーチフェスティバル

入賞(西三大会へ出場)

- 蜂須ほるか(美川・柴田安希(美川))
- 田中優衣(南)・草深匡紀(南)
- 倉世吉千春(竜海)・成瀬勇麻(葵)
- 佐藤亜沙子(葵)・小嶋敦子(常磐)
- 岡田大輔(矢作)・大井笑理(新香山)

◆日本教職員弓道大会

- 全国大会団体優勝
- 愛知県チーム 千賀しのぶ

◆東海地区中学校選手権大会

- ※全国中学校体育大会出場
- バドミントン女子シングル
- 優勝 西村 美穂(城北)



▲統計グラフコンクール (市長賞：葵中2年 今岡 美晴)



▲東海大会優勝 西村 美穂(城北) (スポーツフォトネットワーク提供)

●新しいALT

七月に任期を終えたALTのローレン・スウェンセン先生、ジョゼフ・ホアン先生、(二人ともアメリカ出身)の代わりに、新しく二名の先生が着任した。

- サメット・シイウ (オーストラリア出身)
- マウロ・デイコ (カナダ出身)

継続の五名の先生(ロジャー、ジャームズ、マーク、スマイル、ファルーク) 同様に、活躍を期待する。

どの先生方も明るい性格で、日常会話程度は日本語で話ができる。中には、とても流暢な日本語を話す先生もいるので、小学校からも積極的に要請してほしい。



▲新ALTのサメット女史(左)とマウロ氏(右)

・カ
ツ
ト
竜美丘小 滋野井 貴子

体育祭バザー (昭和26年)

写真提供：東海中学校



「ラムネ、レモン水」、「東海一評判の中学屋、一本で心もほれる」などのユニークな呼び込みで、体育祭のバザーは大盛況だった。

東海中学校は昭和二十二年、「額田郡山中村外三か村学校組合立東海中学校」として、四つの村の協力により創立された。そのため地域が一体となって学校を盛り上げていこうという気持ちが強くなり、バザーをはじめ数多くの取組が行われてきた。

学校と地域が連携し、共に教育に取り組む姿勢は、現在においても、様々な形で受け継がれている。

この本を

- *宇宙の歩き方 林 公代 講談社 ￥1680
- *土の中の子供 中村 文則 新潮社 ￥1260
- *親が子供に教える「一番大切なこと」 今村 暁 三笠書房 ￥1365
- *子どもを殺す子どもたち 福島 章 河出書房新社 ￥1500

*夢をつかむイチロー262のメッセージ

夢をつかむイチロー262のメッセージ編集委員会 ぴあ ￥1050

イチローが努力家であることはよく知られているが、この本を読んで、彼がやみくもに野球に取り組んでいるわけではないことを教えられた。彼は自分の信念に基づいて仮説を立て、試合という実践で検証し、改善点を修正し、再挑戦しているのだ。常に自分を高めるために。

プロゴルファーの宮里藍が優勝インタビューで紹介して話題になった本だが、我々にも学ぶところは少なくない。

岡崎からも多くの方が足を運んだ愛・地球博が閉幕した。自然の叡智をテーマにしたこの博覧会で何を感じとることができただろうか。温暖化、環境破壊など様々な不安を感じていた未来に、「人類はまだまだがんばっていかねば」と一筋の希望を与えてくれたような気がする。

シオ スア

十月一日は、「日本酒の日」だ。中国語で酒壺を表す「酉」の字が十二支で数えて十番目だからという説もあるが、新米を使って酒造りを始めるこの日を酒造元日と呼んでいたことも関係するようだ。秋の深まりとともに、酒の旨みも深いものとなる。

あいさつを交わしながら、アイコンタクトの大切さを教わる子供たち。ALTの話から異国の様子や文化を知り、ゲームやクイズを楽しみながら自然に英語を身につけていく。世界の国々のよさや違いを受け入れ、共に生きる国際人として成長してほしい。

スクール・サポート・ボランティアとして、地域の方々が学校教育にかかわることが多くなった。

市の子育て支援策にも、地域全体で子供を育てていこうとする理念が感じ取れる。社会の変化に対応して、地域の力が、今後ますます重視されていくことだろう。